

# ＊ ＊ 広町の森・植物だより ＊ ＊

## #13 冬の閑話：広町で面白きもの

鎌倉市七里ガ浜・角田紀之

＊ 今回は“広町で面白きもの”という題で5つほどご紹介します（写真10枚）。表題の“植物だより”にはなりません。まあ植物の生育環境ということでご納得ください。もともと何度も広町を体験している人にとってはちっとも“面白きもの”にならないでしょうが、これもまだよくは知らない方たちを対象ということでご勘弁ください。あらためてよく見ると広町には結構興味深いものがたくさんあります。この思いのほか変化に富んでいるのが広町緑地の大きな魅力です。

### （1）通称・カエル池



＊ 御所が谷を小川に沿っておくに進むとこの水溜りがあります。カエル池と呼んでいます。谷から湧き水が流れ込んでいます。

＊ 写真は2007年2月8日、泥で水路がふさがれて水がほとんどない状態だったので、観察・パトロールのグループがシャベルで修復。



＊ 毎年ここにヒキガエル（ガマ）が産卵します。4月頃になり暖かい陽気になるとオタマジャクシで水面が真っ黒になるのを見ることができます。

＊ 写真は2006年3月15日撮影。  
＊ 今年も是非見たいがかなり心配です。

(2) 通称・石切り場



\*カエル池の南の急斜面を上っていくと途中の踊り場に写真のような光景が現われます。はるかに“らい亭”あたりが見渡せてながめがよい場所です。

\*いつかは崩落しそうでちょっと不気味です。石切り場と称していますが??どうもここから石を産出したとは思えない。

\*2006年12月。



\*上の写真では隠れている下の部分です。冬場は周りの木々が枯れるので観察しやすいです。

\*昔“竹が谷城”というのがあったとの説もあります。これで見ると全く自然とは思われなく、確かに人為でできたようにも見えますが?それとも戦時中何らかの利用目的があったのでしょうか?誰に聞いてもはっきりしません。教えてください。

### (3) 鉄を食うバクテリア



\*よく写真のように田んぼなど水辺が赤茶けて油で汚染されたような光景を眼にすることがあります。これは鉱物性ではなく“鉄バクテリア”という細菌の仕業であることがわかりました

\*上の写真は**2005年12月**撮影（通称二本橋）、下は**2007年2月**撮影（御所が谷の奥）です。



\***2005年12月**山田さんらの発意で市に依頼し、分析調査してもらい（水質浄化センター）鉄酸化物などを食す細菌であることがわかりました。

\*その性質を利用して水処理をする研究などもされているようです。

\*動植物に対しては大きな障害にはならないようです。

\*出たり消えたりします。

(4) 木を呑み込む桜の木



\*これは前に一度ご紹介したことがあります、サクラの木とモチノキが根元近くで融合一体になっています（二丁目入り口近く）。

\*これ以上の仲良くなりようはないみたいです。両方とも健在です。

\*さる人、名づけて“サクラモチ”



\*サクラの木がおそらくフジの蔦を完全に“呑み込み”自らの組織の一部としています。蔦は向こう側には伸びていません。

\*蔦は生きているようなのでサクラの組織に同化していると思われます。（2丁目入り口から霊光寺上に向かう道脇）

\*2007年1月撮影

(5) 通称・広町のにはほん橋



\* 広町の通称 “にはほん橋”。

\* 竹が谷と奥竹が谷の分岐のところにあり、二本の橋が連続で小川に架かっているので通称 “二本橋” と呼んでいます。

\* これは **2006** 年春、鎌倉市が古い橋を直してこんな結構なものを作ってくれたものです。



\* これは橋ではありませんが、鎌倉市が整備の一環として湿地を歩きやすくしてくれたものです。(御所が谷・南通路、カエル池近く)

\* 上の橋と同様広町緑地内の木材資源を利用しているのが嬉しいですね。

\* 但し上の二本橋の手すり部分は現在(07年2月)既にかかなり壊れています。野外芸術品は問題か？

(終わり)